

(3) 指導内容の定着を図る活用



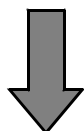
ポイント 8

取り組むべき達成目標や課題をシラバスに具体的に示すことで、指導すべき内容の確実な定着を図ります。

次の例では、達成目標や課題をシラバスに具体的に示しています。その上で、小テストや生徒の自己評価などを授業に取り入れ、指導すべき内容の確実な定着をめざす指導を行った結果、シラバスの導入2年目にして、顕著な成果が現れました。

到達目標を具体的に示したシラバスの例

科目 数学 ・ A		単位数 数学 : 3 単位、数学 A : 2 単位	履修形態 習熟度の分割				
教科書・副教材 数学、数学 A		〇〇社	学年・学級 1 年		組 ~ 〇組		
1 学習のねらい							
「方程式と不等式」では、文字式の基本的な計算、有理数と無理数からなる実数、1 次不等式、2 次方程式について学びます。							
2 学習計画・評価方法等							
学期	学 習 内 容		月	学習の具体的到達目標	備考	考查 範囲	達成度 自己評価
第 1 学期	「数学」の学習について 第 1 章 方程式と不等式 第 1 節 式の計算 1 多項式 2 多項式の加法・減法 3 因数分解		4	・ 整式・展開や因数分解に関心をもち、目的に応じた式の変形をしようとした。 ・ 単項式・多項式・同類項・次数について理解した。 ・ 多項式の加法・減法・乗法の計算が的確にできる。 ・ 整式の展開の公式が的確に使える。 ・ 2 次式・3 次式の因数分解が公式を用いて的確にできる。 ・ 目的に応じて的確に式を変形する方法を考察することができる。		中 間 考 査	
					小テスト		

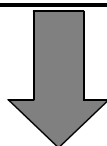


数学科の指導例

- 単元の終了時に、シラバスを用いて到達目標の達成状況を自己評価させる。
- 単元毎に10分間の小テストを実施する。
- 8 割を合格ラインとし、不合格者に対しては追試・追追試を実施する。
- 不合格者対象に補習を実施する。

他教科の指導例

国語	○単元の終了時や定期テスト前に、シラバスに示した到達目標の達成状況を、自己評価により確認させる。 ○連休中の課題、「ノート」、「学習課題ノート」、プリント等を提出させる。
地歴・公民	○単元毎に確認プリントを配付してノートに添付させ、学期末テスト後に提出させる。
理科	○学習内容をミニマム・エッセンシャルズで示す。記入式の確認欄を設けてキーワードや学習事項の理解度を振り返らせる。 ○実験プリント、演習プリント、観察・実験レポート、問題集用ノート等を提出させる。
外国語	○第1学年の「オーラル・コミュニケーション」の授業では、シラバスに示した到達目標2項目に関する例文の暗記を、6割を合格ラインとして実施する。 ○不合格者に対しては課題に取り組ませる。 ○全学年で英単語、英熟語テストを実施する。 ○週末課題、ワークシート、ノートを提出させる。



前年度と比較して平成16年度第1学期に改善された点

- ・定期試験の得点率が向上した。
- ・第1学期の欠点取得者数が前年に比べて大幅に減少した。
- ・基礎・基本の定着が図られた。
- ・教員が、より一層きめ細かな指導をするようになった。